

## 第 2 回課題調査

# 第Ⅱ部 調査結果の概要



## 第1章 気候変動への適応

### 1 「気候変動への適応」の認知度 (P355)

「気候変動への適応」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が42.9%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が27.1%であった。

### 2 「気候変動への適応」への関心 (P357)

「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(52.0%)と「どちらかといえば関心がある」(37.6%)を合わせた《関心がある》が89.7%であった。

一方、「関心がない」(1.1%)と「どちらかといえば関心がない」(4.2%)を合わせた《関心がない》は5.3%であった。

### 3 「気候変動への適応」の中で関心があるもの (P359)

「気候変動への適応」への関心(問2)で、《関心がある》と回答した1,213人に「気候変動への適応」の中で特に関心があるものを複数回答(2つまで選択可)で尋ねたところ、「強い台風や激しい雨による交通・電気・水道などのインフラへの被害の対処」が65.5%で最も多く、次いで「水害をもたらす高い波や土砂災害などの自然災害が増加することへの対処」が53.8%であった。

### 4 「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由 (P361)

「気候変動への適応」への関心(問2)で、《関心がない》と回答した72人に「気候変動への適応」に関心を持つことが難しいと思う理由を複数回答(2つまで選択可)で尋ねたところ、「具体的に何をしたらいいのかわからないから」が41.7%で最も多く、「気候変動によりどのような影響があるのかよくわからないから」(30.6%)と「気候変動による影響の危機感が感じられないから」(29.2%)が約3割で続いた。

## 第2章 環境に配慮した生活

### 1 再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望 (P363)

多少値段が高くても再生可能エネルギーを利用した電力を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が29.1%であった。

一方、「購入したいと思わない」は、17.7%であった。

### 2 環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望 (P365)

多少値段が高くても有機栽培など環境にやさしい方法で作られた農作物を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が45.1%であった。

一方、「購入したいと思わない」は、10.9%であった。

### 3 環境問題の情報収集の有無 (P367)

興味のある環境問題について情報を収集しているか尋ねたところ、「収集している」が24.0%であった。

一方、「収集していない」は、43.2%であった。

### 4 NPO等が行っている環境保全活動への参加希望 (P369)

NPO等が行っている環境保全活動に参加したいと思うか尋ねたところ、「参加したいと思う、すでに参加している」が11.2%であった。

一方、「参加したいと思わない」は、31.6%であった。

### 5 企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献 (P371)

企業等の持つ技術力が、地球温暖化などの環境問題の解決に生かされていると思うか尋ねたところ、「生かされていると思う」が42.1%であった。

一方、「生かされていると思わない」は、20.7%であった。

## 第3章 生物多様性

### 1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度 (P373)

「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が37.0%で最も多く、次いで「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が32.2%であった。

### 2 神奈川県における生物多様性の保全の取組で重要なもの (P375)

神奈川県における生物多様性の保全について、どの取組が重要だと思うか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「山地や里山、都市や河川・海などの自然環境を保全する取組」が84.8%で最も多く、次いで「外来生物を防除する取組」が59.8%であった。

### 3 生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組 (P377)

生物多様性について知る、または行動する機会として、どの取組に参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「緑地や里地里山など自然環境を保全・再生する活動」が37.5%で最も多く、次いで「自然や生きものとふれあう自然観察会」が30.5%であった。

## 第4章 鳥獣被害

### 1 被害を及ぼす野生鳥獣として知っているもの (P379)

人と野生鳥獣とのあつれきにより発生している農林業被害、人身被害、生活被害などを及ぼす野生鳥獣として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「カラス」(75.4%)と「イノシシ」(74.2%)がともに7割台であった。

### 2 鳥獣被害が生じる原因 (P381)

神奈川県で鳥獣被害が生じる原因について複数回答で尋ねたところ、「地球温暖化による生息環境の変化」が56.2%で最も多く、次いで「外来生物の移入」が46.6%であった。

### 3 鳥獣被害問題を解決するために参加したい取組 (P383)

鳥獣被害問題を解決するためにどのような取組であれば参加したいと思うか複数回答で尋ねたところ、「農林業被害を及ぼす野生鳥獣の生態等を学ぶ研修」が28.8%で最も多く、「鳥獣被害を防ぐためのやぶ刈作業、防護柵の設置等の実技研修」(19.3%)と「担い手不足解消のための農業ボランティア」(19.2%)が約2割で続いた。

## 第5章 かながわの広報

### 1 県の広報の達成度 (P385)

神奈川県が県政の情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えていると思う」(9.3%)と「どちらかといえば伝えていると思う」(38.9%)を合わせた《伝えていると思う》は48.2%であった。

一方、「伝えていないと思う」(9.8%)と「どちらかといえば伝えていないと思う」(14.2%)を合わせた《伝えていないと思う》は23.9%であった。

### 2 県の広報媒体の認知度 (P387)

神奈川県が県政情報を伝える広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が75.2%で最も多く、次いで「県のホームページ」が29.6%であった。

### 3 神奈川県の情報の入手先 (P389)

神奈川県の情報(事業や行事、お知らせなど)を、どこから入手しているか複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が64.2%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオのニュースなど」が24.2%であった。

### 4 今後力を入れたほうがよいと思う広報の方法 (P391)

神奈川県が情報を発信する上で、今後、積極的に力を入れたほうがよいと思う広報の方法を複数回答(3つまで選択可)で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が45.7%で最も多く、次いで「県のホームページ」が27.1%であった。

## 第6章 スポーツ

### 1 1年間のスポーツ実施日数 (P393)

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度(年151日~250日)」が15.9%で最も多く、次いで「週に2日程度(年に101日~150日)」(14.6%)と「月に1~3日程度(年12日~50日)」(14.2%)が続いた。

### 2 「3033(サンマルサンサン)運動」の認知度 (P395)

「3033(サンマルサンサン)運動」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が81.6%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が10.6%であった。

### 3 「総合型地域スポーツクラブ」の認知度 (P397)

「総合型地域スポーツクラブ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が75.7%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が13.9%であった。

### 4 「かながわのパラスポーツ」の認知度 (P399)

「かながわパラスポーツ」を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が79.7%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が13.1%であった。

### 5 横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019の観戦状況 (P401)

横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019を観戦したか複数回答で尋ねたところ、「テレビで観戦した」が72.1%で最も多く、次いで「全く観戦しなかった」が21.7%であった。

### 6 ラグビーへの興味 (P403)

横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019の観戦状況(問22)で「直接試合会場で観戦した」、「ファンゾーンで観戦した」、「ファンゾーン以外のパブリックビューイングで観戦した」、「テレビで観戦した」のいずれかを選択した1,001人にラグビーに対して興味を持ったか尋ねたところ、「ワールドカップを見て、ラグビーに興味を持った」が62.6%で最も多く、次いで「以前からファンだったが、さらに興味が深まった」が17.9%であった。

## 第7章 地域コミュニティ

### 1 将来の親族等との同居・近居意向 (P405)

将来、親や子、親族の近くに、あるいは一緒に住みたいという考えがあるか尋ねたところ、「ある」(24.3%)と「どちらかといえばある」(27.9%)を合わせた《ある》は52.2%であった。

一方、「ない」(9.2%)と「どちらかといえばない」(6.0%)を合わせた《ない》は15.2%であった。

### 2 コミュニケーション相手の年代 (P407)

日頃、地域において、どの年代の人とコミュニケーションを取っているか複数回答で尋ねたところ、「年代は問わず取っている」が28.4%で最も多く、「60代」(26.5%)と「70代」(23.5%)が続いた。

一方、「取っていない」は、21.1%であった。

### 3 コミュニケーションに期待しているもの (P409)

コミュニケーション相手の年代(問24)で「年代は問わず取っている」、「10代以下」、「20代」、「30代」、「40代」、「50代」、「60代」、「70代」、「80代以上」のいずれかを選択した1,028人に、その年代の方とのコミュニケーションに期待しているものを複数回答で尋ねたところ、「情報が得られる」が69.2%で最も多く、次いで「楽しさが得られる」が52.6%であった。

#### 4 「地域コミュニティ」としてイメージする範囲 (P411)

「地域コミュニティ」のイメージはどの範囲か複数回答で尋ねたところ、「自治会、町内会」が54.5%で最も多く、次いで「範囲にこだわらず幅広い」が27.3%であった。

### 第8章 地域社会との関わり

#### 1 地域社会との関わり方に関する意識 (P413)

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が67.8%であった。

一方、「そう思わない」は、27.8%であった。

#### 2 退職後や65歳以降の人生でやりたいこと (P415)

退職後や65歳以降の人生でやりたいと考えていることを尋ねたところ、「趣味の活動（運動等を含む）」が43.3%で最も多く、次いで「仕事」が10.2%であった。

#### 3 地域活動への参加頻度 (P417)

地域活動（ボランティア、自治会等）の参加頻度について尋ねたところ、「参加していない」が53.4%で最も多く、次いで「年に1、2回程度」が15.2%であった。

#### 4 地域活動の参加の妨げとなる理由 (P419)

地域活動への参加頻度（問28）で「半年に1、2回程度」、「年に1、2回程度」、「参加していない」のいずれかを選択した1,041人に地域活動の参加の妨げとなる理由を尋ねたところ、「時間がない」が38.3%で最も多く、次いで「参加するきっかけがない」が22.6%であった。

#### 5 地域活動に参加するための支援やきっかけ (P421)

地域活動に関して、どのような支援やきっかけがあれば参加しやすくなると思うか尋ねたところ、「知人や家族等からの誘い」が51.4%で最も多く、次いで「広告、チラシやウェブサイト、SNS等による情報提供」が16.3%であった。

#### 6 地域での課題 (P423)

住んでいる地域で課題だと感じていることを尋ねたところ、「特にない」が25.1%で最も多く、次いで「自治会等の地域活動の担い手が不足している」が23.2%であった。

### 第9章 「未病改善」の取組

#### 1 「未病（ME-BYO）」の認知度 (P425)

「未病（ME-BYO）」という言葉を知ったことがあるか尋ねたところ、「聞いたことがある」が61.4%であった。

一方、「聞いたことがない（今回の調査で初めて聞いた）」は、36.1%であった。

## 2 「未病（ME－BYO）」の意味の認知度（P427）

「未病（ME－BYO）」の認知度（問31）で、「聞いたことがある」と回答した831人に、「未病（ME－BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が67.1%であった。

一方、「言葉の意味は知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、31.3%であった。

## 3 「未病改善」の取組の実践（P429）

過去の1年間で「未病改善」の取組（バランスの良い食事、運動、人との交流等）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」が31.7%で最も多く、次いで「以前から行っておらず、今も行っていない」が24.2%であった。

## 4 「未病改善」の取組に必要なと思うもの（P431）

「未病改善」の取組（バランスの良い食事、運動、人との交流等）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「スポーツセンター等、気軽に運動ができる施設」が42.3%で最も多く、「医師等、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス」（41.7%）と「健康に良い食材や調理方法等、食に関する情報」（38.7%）が約4割で続いた。

# 第10章 かかりつけ薬剤師・薬局

## 1 薬局を選ぶ基準（P433）

医療機関で処方箋を受け取った場合、どのような基準で薬局を選ぶか尋ねたところ、「処方箋を受け取った医療機関からの距離が近い」が62.9%で最も多く、次いで「自宅からの距離が近い」が14.4%であった。

## 2 薬局の薬剤師への相談意向（P435）

薬局で調剤された薬を受け取る時以外に、いつどのように薬の効き目や副作用等に関することを、薬局の薬剤師に相談したいか尋ねたところ、「薬を服用している期間中に体調に変化があり、副作用等を疑うとき」が37.7%で最も多く、次いで「相談したいと思うことはない」が23.8%であった。

## 3 かかりつけの薬剤師・薬局に対するニーズ（P437）

かかりつけの薬剤師・薬局にどのようなことをしてほしいか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「服用している薬の効果や副作用の継続的な確認」が50.2%で最も多く、「服用している薬と食べ物の飲み合わせの相談」（27.9%）と「ジェネリック医薬品（後発医薬品）に関する情報提供」（27.2%）が続いた。



## 第11章 肝炎・アルコール依存症対策

### 1 ウイルス性肝炎の認知度 (P439)

ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「どのような病気か知っている」が46.6%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が40.7%であった。

### 2 「肝炎ウイルス検査」の受診状況 (P441)

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」が23.5%であった。

一方、「受けたことがない」は、62.1%であった。

### 3 「肝炎ウイルス検査」を受診しない理由 (P443)

「肝炎ウイルス検査」の受診状況(問38)で肝炎ウイルス検査を「受けたことがない」と回答した840人に、受診しない理由について尋ねたところ、「健康なので必要ないから」が56.8%で最も多く、次いで「日程や場所がわからなかったから」が24.5%であった。

### 4 アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの (P445)

アルコール依存症について、相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「医療機関(病院や診療所など)」が76.3%で最も多く、次いで「公的機関(精神保健福祉センターや保健所など)」が34.7%であった。

## 第12章 妊娠・出産等に関するライフプランニング

### 1 妊娠・出産等について知っていること (P447)

妊娠・出産等について知っていることを複数回答で尋ねたところ、「医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる」が81.4%で最も多く、次いで「不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある」が78.4%であった。

### 2 妊娠・出産や不妊に関する情報の入手先 (P449)

妊娠・出産等について知っていること(問40)で「医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる」、「卵子は胎児のうちに一生分作られ、出生後に新たに作られることはない」、「精子は加齢とともに徐々に作られる数が減少する」、「不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある」、「不妊に対する治療を受けても、女性の年齢が高いほど出産に至る可能性は低くなる」のいずれかを選択した1,190人に妊娠・出産や不妊に関する情報をどこから入手しているかを複数回答で尋ねたところ、「テレビ番組・テレビCM」が19.7%で最も多く、次いで「インターネット(SNSやアプリなども含む)」が13.2%であった。

### 3 妊娠・出産と年齢との関係について知っておきたい年代 (P451)

男女の加齢により妊娠しにくくなるなど、妊娠・出産と年齢との関係についての情報をいつでも知っておくのがよいと思うか尋ねたところ、「高校生の頃 (15~17歳頃)」が29.2%で最も多く、次いで「中学生の頃 (12~14歳頃)」が28.0%であった。

### 4 妊娠・出産等に関するライフプランの有無 (P453)

「将来、自分が子どもを持つのか持たないのか、どのようにその希望を実現するか」といった観点から人生設計 (ライフプラン) を考えたことがあるか尋ねたところ、「考えたことがある」が60.5%であった。

一方、「考えたことがない」は、17.7%であった。

## 第13章 地震対策の取組

### 1 大きな地震に備えた対策 (P455)

神奈川県では、首都直下地震や南海トラフ地震、神奈川県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「食料や飲料水を備蓄している」が66.6%で最も多く、次いで「非常持ち出し品を準備している」が47.8%であった。

### 2 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策の程度 (P457)

大きな地震に備えた対策 (問43) で「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している (一部固定を含む)」と回答した559人に、家具・家電などの転倒・落下・移動による被害の防止対策がどの程度までできているか尋ねたところ、「重量のある家具・家電などの一部の固定はできている」が41.3%で最も多く、次いで「重量のある家具・家電などの固定はできている」が29.2%であった。

### 3 家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由 (P459)

大きな地震に備えた対策 (問43) で「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している (一部固定を含む)」と回答しなかった794人に、家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由を複数回答で尋ねたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」が32.9%で最も多く、「家具や壁などに傷をつけるから」(19.1%) と「面倒だから」(19.0%) が約2割で続いた。

### 4 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動 (P461)

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する (地震後、5分以内で避難を開始)」が88.2%で最も多かった。

## 5 津波に対する知識 (P463)

津波に関する10項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」(94.4%)、「津波は、早ければ地震発生後数分で到達する」(92.1%)、「津波は、繰り返し襲ってくる」(91.0%)がそれぞれ9割を超えた。

一方、「知らなかった」では、「津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸にオレンジ色の旗(『オレンジフラッグ』といいます)が出されることがある」が83.9%で最も多かった。

## 6 津波に対して実施が望まれる制度 (P470)

津波に対する防災・減災の観点から住んでいる地域で実施が望まれる制度を複数回答で尋ねたところ、『津波災害警戒区域』の指定が17.1%で最も多く、『津波災害特別警戒区域』の指定(15.4%)と「津波防災地域づくりの総合防災ビジョンを示す『推進計画』の策定」(15.2%)が続いた。

# 第14章 自転車損害賠償責任保険等への加入

## 1 自転車の利用状況 (P472)

通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用しているか尋ねたところ、「利用している」が35.0%であった。

一方、「利用していない」は、60.6%であった。

## 2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況 (P474)

自転車の利用状況(問47)で、「利用している」と回答した473人に、自転車利用中に事故を起こした際に、相手方の損害を賠償することができる保険(自転車損害賠償責任保険等)に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が60.3%であった。

一方、「加入していない」は、31.5%であった。

## 3 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え (P476)

すべての自転車利用者が自転車損害賠償責任保険等に参加することについてどう思うか尋ねたところ、「加入すべきである」が81.2%であった。

一方、「その必要はない」は、5.0%であった。

